



これは「セルフラーニング教材」CAT編:図書コース・雑誌コースの補足教材,「『日本目録規則2018年版』準拠後のNACSIS-CAT」の目的編です。

この教材は,考え方の基本を説明した目的編と,作業の具体例で示す解説編に分かれています。

最初に考え方の基本として,なぜ変わるのか,その目的を説明しましょう。

## 準拠する目録規則の変更

タイトル（本文）の言語	改訂前	改訂後
日本語、中国語、韓国・朝鮮語（和資料）	『日本目録規則』1987年版改訂版、改訂3版（NCR87R、NCR87R3）	『日本目録規則』2018年版（NCR2018年版）
上記以外（洋資料）	『英米目録規則』第2版1988年改訂、1993年修正、2002年改訂（AACR2R）	

※セルフラーニング教材

「目録情報の基準. 図書編・雑誌編」第2章1節3項 準拠する目録規則

これまでNACSIS-CATが準拠する目録規則は、和資料と洋資料で分かれていました。2024年10月以降は、和洋とも『日本目録規則2018年版』に変わります。

それに伴い、実際にNACSIS-CAT上の作業で、記述方法、すなわちコーディング方法も変わり、コーディングマニュアルが改訂されました。

すでにNACSIS-CATでの目録業務に慣れた方も、既存のセルフラーニング教材を習得された方も、改めて『日本目録規則2018年版』準拠のコーディング方法を理解しておきましょう。

なお、この教材では『日本目録規則2018年版』のことを、「NCR2018年版」と言います。

## 到達目標

1. NCR2018年版準拠後のコーディングマニュアルについての理解を深め、
2. NCR2018年版の必要箇所を参照できるようになり、
3. 書誌の作成や修正ができるようになることを目指します!

コーディングマニュアル

<https://catill.bitbucket.io/CM/mokuji.html>

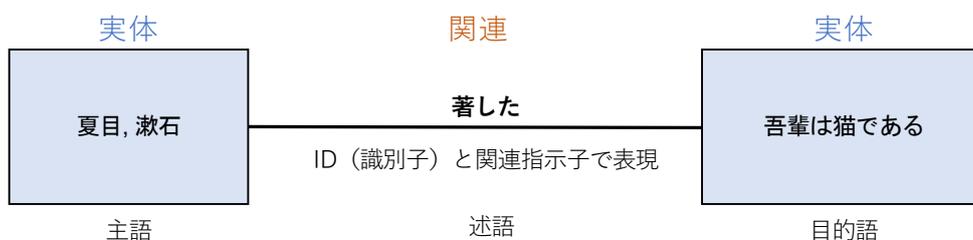
NCR2018年版

<https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018>

この教材の到達目標は、コーディングマニュアルをすべて覚えることではありません。NCR2018年版準拠後のコーディングマニュアルについての理解を深め、NCR2018年版の必要箇所を参照できるようになり、書誌の作成や修正ができるようになることを目指します。コーディングマニュアルもNCR2018年版も公開されていますので、ブックマークをつけておくと良いでしょう。

## 関連で表し，繋げる目録へ

実体・関連モデル（ERモデル、Entity-Relationship Model）



1. 識別子（ISBN, ISSN等のID）が世界に繋がる決め手に
2. 新たな「関連」の記録方法
  - 書誌データと著者名典拠データとの間の「その他の情報」を「関連指示子」として決められた語彙を用いる
  - NOTEに「関連を記録する注記」が追加 など

従来目録法は、カード目録と同じように記入していた書誌情報を、NACSIS-CAT/ILLのシステムで機械可読データ化したものでした。

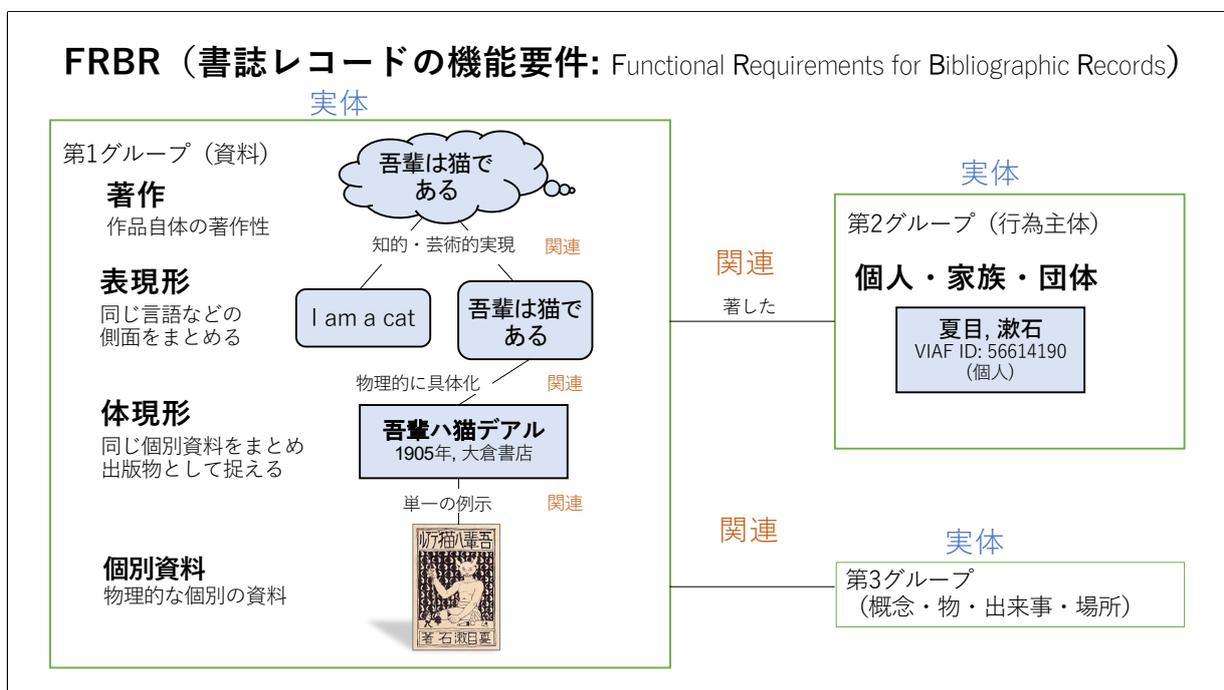
NCR2018年版に準拠することで、NACSIS-CATの閉じたシステムから、世界のデータと接続し、他の機関の書誌データとの互換性を高めることを目指します。

新しい考え方は「実体・関連モデル」(ERモデル)といいます。膨大なウェブ情報をナビゲートするための標準的な設計です。

例えば、「夏目漱石」と、「吾輩は猫である」という二つの実体を、「著した」という関連が繋がります。これらは、「夏目漱石」が、「吾輩は猫である」を、「著した」というように、主語、述語、目的語の関係になっています。

NCR2018年版準拠の目的は「関連で表し，繋げる目録」を作成することです。ID(識別子)が重要で、「関連」に関するデータ要素が重視されます。

コーディングマニュアルでは、「関連」の記述が新たに追加され、書誌データと著者名典拠データとの間の「その他の情報」を「関連指示子」として特定の語彙を使用することや、NOTEフィールドに「関連を記録する注記」が追加されました。これにより、「関連」という用語が使用されるようになります。



NCR2018年版の基盤となった重要な考え方を示す「FRBR(書誌レコードの機能要件)」も、ERモデルに基づいています。

FRBRでは、まず、実体を第1グループ「資料」、第2グループ「行為主体」、第3グループ「概念・物・出来事・場所」の3つのグループに分けます。

第1グループと第2グループ、第1グループと第3グループが、それぞれ関連で表されます。

更に、第1グループ「資料」の実体は4つに分けられます。

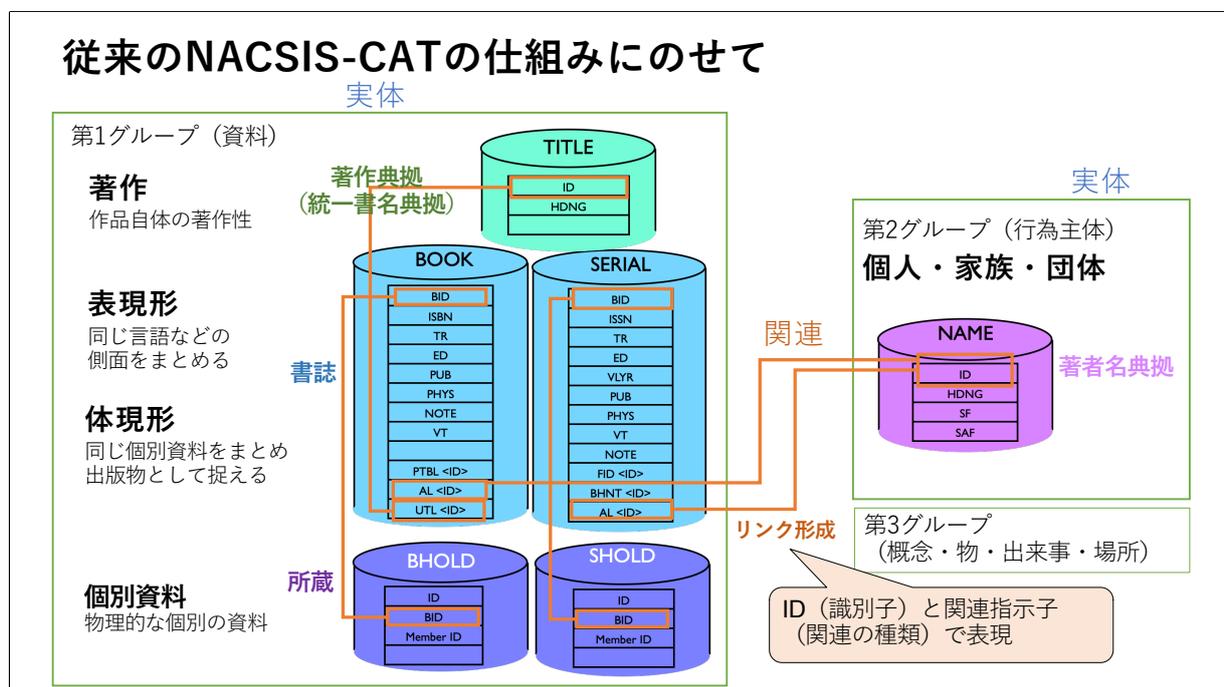
まず、物理的な個別の資料を「個別資料」といいます。例えば、手元に「吾輩は猫である」が1冊あれば、それが一つの個別資料です。

次に、同じ個別資料をまとめた出版物として捉える実体を「体現形」といいます。例えば、1905年に大倉書店から出版された「吾輩ハ猫デアル」は、すべて同じ「体現形」です。別の出版者から文庫として出版されれば、別の体現形になります。

次に、同じ言語などの側面をまとめた実体が「表現形」です。日本語の「吾輩は猫である」は、どの出版社から出されたものも同じ表現形になります。英訳された「I am a cat」は、日本語とは別の表現形になります。

最後に、作品自体の著作性を表す実体が「著作」です。日本語版も英語版も、同じ作品ですので、同じ「著作」になります。

また、これらの4つの実体同士も関連によってつながります。例えば、「表現形」と「著作」は、「知的・芸術的実現」という関連でつながります。



NCR2018年版準拠にあたって、従来のNACSIS-CATのシステムを、FRBRに則って考え直すことになりました。

FRBRの「個別資料」は、NACSIS-CATでは「所蔵データ」にあたります。

「表現形」と「体現形」はどちらも、NACSIS-CATでは「書誌データ」で表現します。NACSIS-CATで書誌データを作成する際は、「表現形」と「体現形」それぞれの性質を理解して、どちらの条文も確認する必要があります。

「著作」は、NACSIS-CATの「統一書名典拠」の名前を変えて、「著作典拠」と呼ぶことになりました。

第2グループの「個人・家族・団体」は、NACSIS-CATの「著者名典拠」となります。

第3グループの「概念・物・出来事・場所」は、NACSIS-CATでは「件名」になります。

また、FRBRの「関連」は、NACSIS-CATでは、主にリンク形成の仕組みで表現することになります。例えば、書誌データのALフィールドに、著者名典拠IDを記録してリンク形成すると、体現形と個人の間に関連を作成したことになります。その著者が資料を「著した」という、関連の種類は、新たに追加された「関連指示子」で表現します。こちらは、解説編で詳しく説明します。

## 他機関作成データとの互換性

他の機関で作成されたデータとの互換性をより高めるために

### 【コードの追加】

- 出版等の役割表示 (PUBF)のコード追加：「d」(頒布)，「p」(制作)など  
これらは必要に応じてPUBフィールドを繰り返して記録
- タイトルの種類コード(VTK)の「LT」(後続タイトル)と，「ET」(先行タイトル)の追加
- 著者名典拠の属性コード(TYPE)の「f」家族の追加

### 【記述方法の変更】

- 英語を用いる場合の略語の使用を制限
- 表現種別，機器種別，キャリア種別の記述
- 典拠形アクセス・ポイントでの識別要素の区切り記号の変更 など

他の機関で作成されたデータとの互換性をより高めるために、これまでのNACSIS-CATのデータ形式は変えずに、コードを追加したり、記述方法の変更を行った箇所があります。

コードの追加としては、出版等の役割表示(PUBF)のコードに「d」、「p」などが追加されました。必要に応じてPUBフィールドを繰り返してこれらを記録できるようになります。その他のタイトルの種類コードとして、雑誌の本タイトルの軽微な変化後のタイトル「LT」、更新資料の先行タイトル「ET」が設けられました。

著者名典拠の属性コードは、新たに家族名の「f」が追加されました。

また、記述方法の変更としては、目録用言語に英語を用いる場合の略語の使用制限や、表現種別、機器種別、キャリア種別を記述できるようになったことや、典拠形アクセス・ポイントでの識別要素の区切り記号などが変わります。

こちらも、解説編で詳しく説明します。

NCR2018年版準拠の目的を理解することで、新たな用語(著作、表現形、体現形、典拠形アクセスポイント)の意味が理解できるようになります。解説編では、具体的なコーディングマニュアルの参照方法を解説します。

## 用語穴埋めクイズ

- FRBR等の実体関連モデルでは第1グループ（資料）を，著作，表現形，【  】，個別資料の4つの実体として捉える
- 実体の第2グループ（行為主体）は，【  】典拠データセットに記録する
- 統一書名典拠は【  】典拠に名前が変わる
- 書誌データと著者名典拠データとの間の「その他の情報」は【  】指示子として決められた語彙を用いる
- 書誌情報には，【  】種別，機器種別，キャリア種別を記録することができる

解説編では，具体的にコーディングマニュアルを参照しますが，その中に新たな用語が出てきますので，クイズで言葉の確認をおきましょう。  
答えが続きますので，一旦動画を停止して，解答を考えたら再開してください。

## 用語穴埋めクイズ 解答

- FRBR等の実体関連モデルでは第1グループ（資料）を，著作，表現形，【**体現形**】，個別資料の4つの実体として捉える
- 実体の第2グループ（行為主体）は，【**著者名**】典拠データセットに記録する
- 統一書名典拠は【**著作**】典拠に名前が変わる
- 書誌データと著者名典拠データとの間の「その他の情報」は【**関連**】指示子として決められた語彙を用いる
- 書誌情報には，【**表現**】種別，機器種別，キャリア種別を記録することができる

用語穴埋めクイズの解答です。

FRBR等の実体関連モデルでは第1グループ（資料）を，著作，表現形，【**体現形**】，個別資料の4つの実体として捉えます。

実体の第2グループ（行為主体）は，【**著者名**】典拠データセットに記録します。

統一書名典拠は【**著作**】典拠と呼びます。

書誌データと著者名典拠データとの間の「その他の情報」は【**関連**】指示子として決められた語彙を用いることとなります。

書誌情報には，【**表現**】種別，機器種別，キャリア種別をNOTEに記録することができるようになりました。